

2 高大連携に関する取り組みについて

本学は付属校、宗門関係校（教育連携校・関係校）、高大連携に関する包括協定を締結した一般の高等学校に対して、教育の連続性を見据えた「対話型（双方向型）」の高大連携をめざし“学びの接続”と“キャリアの接続”に向けた実効性のある教育連携事業を実施してきた。

2011年度は、引き続き各校との連携事業を実施するとともに、新たに策定した高大連携の基本方針に基づき、これまで以上に高等学校との意見交換の機会を増やすとともに、「高大連携フェロー」を配置し、高大連携校との情報交換体制の強化を図り、信頼関係をさらに深めるよう取り組んだ。

1 龍谷大学付属平安中学校・平安高等学校の教育展開

2011年度は、2008年度の付属化以降はじめてとなる生徒、いわゆる付属化一期生が本学に入学した。これらの付属校生は、高等学校と大学が共同で構築した正課カリキュラムや高大連携教育プログラムによる教育を受けた生徒であり、今後の活躍が期待される。また、本学と付属平安高等学校との活発な意見交換を行い、高大連携教育プログラムのさらなる発展に取り組んだ。

● 高大連携教育プログラムの実施

大学入学後も強い学修意欲を持つ付属校生を育成するため、これまでの教育連携の成果を活かし、「龍谷アワー（学長講演）」、「キャンパスビジット（大学講義聴講）」、「学部・学科別ガイダンス」等、低年次からの体系的な高大連携教育プログラムを実施した。

● 高大連携科目への協力

高等学校と大学との垣根を越えた付属校の魅力ある取り組みとして、「高大連携科目」を付属平安高等学校の3年生の正課科目に設置している。具体的には、文系の生徒を対象とした「現代を学ぶ」では、現代社会における諸問題に関して講義テーマを与え、授業を実施している。2011年度は、文学部より「日本人の信仰について -仏教の死生観に照らして-」、国際文化学部より「人間の安全保障」の2つのテーマを提供し実施した。また、理系の生徒を対象とした「理数研究」では、本学理工学部の教員と付属平安高等学校の教員とがチェーンレクチャー方式で授業を進め、数学科では、授業をまとめた報告書を作成するなど、取り組みのさらなる改善に向けて取り組んでいる。

● 付属校との意見交換の充実

高校教員と大学教員相互の信頼関係を深めるとともに、

円滑な高大連携が図れるよう、付属校推薦入試や高大連携教育プログラムに関する意見交換会を実施した。そこでの意見を踏まえて、「学部・学科（専攻）別学習課題」の実施方法を改善するとともに、生徒が課題の趣旨を理解し、主体的に取り組めるよう学部別のガイダンスを実施した。

2 教育連携校・関係校との教育連携

建学の精神を同じくする宗門関係学校の中で、教育連携に関する協定を締結している北陸高等学校（福井県）、崇徳高等学校（広島県）、神戸龍谷高等学校（兵庫県）、相愛高等学校（大阪府）に対して、進路意識の醸成と大学進学に向けた動機付けを狙いとした各種の教育連携事業を実施した。

● 教育連携事業の実施

生徒の進路意識の醸成と大学進学に向けた動機付け等を狙いとして、模擬講義、進路ガイダンス、大学見学会等の教育連携事業を実施した。さらに各校との個別事業だけではなく、教育連携校推薦入学試験で合格した生徒を対象に「教育連携校オリエンテーション」を実施した。そこでは、生徒の学ぶ意欲を高め、大学生活にスムーズに移行できるよう、入学する学部の教員によるガイダンスと高校生同士や大学生との交流の場を設けた。

● 「龍谷アドバンスト・プロジェクト」への協力

浄土真宗のみ教え、親鸞聖人の精神を建学の精神とする浄土真宗本願寺派の関係学校で構成される龍谷総合学園が主催する「龍谷アドバンスト・プロジェクト」は、e-Learning教材から、高校生がひとつの教育テーマに関する基本を習得し、さらに生徒が主体的に課題に取り組んだ成果を、各校の参加生徒が集まる交流学習においてプレゼンテーションを行うコンテスト型の事業である。本学は、毎年、中核校として企画・運営に協力し、会場の提供や、講師や学生スタッフの派遣をおこなっている。2011年度は、龍谷総合学園の加盟校のうち18校から約100名の生徒と教員が参加し、大宮学舎や深草学舎を会場に2泊3日の合宿研修をおこなった。



3 高大連携協定校との教育連携

本学は、連携関係の強化が求められる京都府、滋賀県、大阪府、奈良県の指定校を重点校と位置づけ、合計28校と

高大連携に関する包括協定を締結している。2011年度は、これまでの高大連携事業の実績を踏まえつつ、相互の情報交換体制をより強化することにより、各校との信頼関係をさらに深めるべく、各事業に取り組んだ。

● 大学をフィールドとした高大連携事業の実施

大学の学びの体験や実験・実習施設の見学、また大学生と交流することは、高校生の満足度が高いことから、単に大学を見学するだけでなく、大学の通常講義を聴講するプログラムや、学生や留学生との交流会など、大学をフィールドとした交流型の事業を実施した。

● 高等学校との情報交換体制の強化

高校と大学の教員間のコミュニケーションを深め、双方がより強固な信頼関係を築くことを目的として、高大連携協定校28校を対象としたはじめての意見交換会を実施した。ここでは、高大連携協定校から本学に入学した学生の学修状況や各学部の取り組みの紹介を通して高等学校と大学間の情報共有を図った。また、高等学校側の意見を十分に反映し、互いの強い信頼関係のもとに高大連携事業を展開するため、中等教育に関する優れた知識と経験を有する「高大連携フェローA」を配置して、高等学校との情報交換をより活性化する体制を整えた。

● 高等学校の特色作りの支援

高大連携協定校である京都府立桂高等学校の特色作りへの支援として、2010年度に引き続き、2年生の理数系生徒を対象とした「高大連携連続講座」を実施した。2011年度は、地球環境保全に関する講演と定性分析に関する2回の講義と3回の実験をおこなった。本学理工学部教員と大学院生によるT.A.（ティーチング・アシスタント）の指導の下、生徒が大学の高度な施設設備を使い、実験や実験レポートの作成に取り組むことにより、科学に対する興味、知的探究心を育成することに寄与した。

● 高等学校のキャリア教育の支援

本学が独自に制作した進路学習教材『逆引き学び発見BOOK』の提供や、本学キャリア開発部のスタッフを講師として派遣するなど、高大連携協定校におけるキャリア教育の推進に対する支援をおこなった。

4 その他の連携事業

本学は、これまで高大連携事業に取り組む中で、個別の高等学校との高大連携に関する包括協定に基づいた事業の展開だけではなく、地域貢献の一環として以下の事業に取り組んだ。

● 教育委員会等との連携

滋賀県教育委員会との協定に基づき「滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座」に、2011年度は、理工学部より「コンピュータサイエンスの応用 ～音楽や犯罪捜査に大活躍!～」をテーマとして連続講座を提供した。また、環びわ湖大学・地域コンソーシアム主催の「学びへの誘い」には、国際文化学部より『『宗教』の語源は、かなりえぐい!』をテーマとして講義を提供した。これらの活動を通じて、本学と高大連携協定を締結する高等学校の生徒だけではなく、広く近隣の高校生に対して大学での学びや本学に対する関心を高める機会を提供した。

● 模擬講義への対応

模擬講義は、高校生が低年次から大学の学びに触れる機会として、多くの高等学校で進路学習の一環で導入されており、本学への依頼件数も増加の傾向にある。そこで、全学的に模擬講義への依頼に協力することを確認するとともに、「高大連携フェローB」を配置して高等学校からの模擬講義等の要請に対して積極的に対応する体制を整えた。